

6th Alpine Conference on Solid-State NMR 参加報告書

(日本核磁気共鳴学会「若手研究者渡航費助成金」)

平成21年9月24日

京都大学大学院理学研究科 博士後期課程1回生

神原孝之

はじめに、私は日本核磁気共鳴学会「若手研究者渡航費助成金」の援助を受けて、第6回 Alpine 会議 (6th Alpine Conference on Solid-State NMR, France, 13-17 September 2009) に参加させていただいたことを、故京極好正名誉教授、故阿久津政明氏、ご家族の皆様、並びに日本核磁気共鳴学会関係者の方々に深く感謝いたします。

この学会は、ISMAR (The International Society of Magnetic Resonance) と欧州の核磁気共鳴学会にあたる The Groupement AMPERE (Atomes et Molécules Par Études Radio-Électriques) の後援により、フランスの Chamonix-Mont Blanc で平成21年9月13日~17日に開催された、固体 NMR の手法と応用に焦点を置いた欧州の国際会議です。西ヨーロッパ最高峰の Mont-Blanc を臨む 1999 年の第1回以降、隔年で開催されており、今回はフランス、イギリス、ドイツ等のヨーロッパ諸国中心に世界 26 カ国から 200 人以上の参加者が集まりました。

私は、『Solid-state ¹³C NMR studies on conformational transformation of poly(β -benzyl L-aspartate) using Switching-Angle Sample-Spinning』という題目でポスター発表を行いました。ポリペプチドである poly(β -benzyl L-aspartate) (PBLA) は、固体状態で加熱することによって二次構造が不可逆的に変化することが知られており、他のポリペプチドには見られないこの性質の原因を、原子核周りの電子雲の広がりに関する情報を含む化学シフト異方性の観点から分析しました。十数名の方々と議論することができ、手法や装置に関する質問や助言も多く得られました。また、固体 NMR 学会ということもあって、自分と同じ手法や類似のサンプルを用いた研究を行っている学生さんとのディスカッションができたことは、非常に有益でした。このように今回の学会では、海外の学生や研究者の方々との交流ができ、今後の研究生活の大きな糧になったと感じています。

最後に、私の Alpine 会議への参加に援助していただいた日本核磁気共鳴学会に重ねてお礼を申し上げます。